



経済産業省
東北経済産業局

令和6年度RESAS活用・現状分析支援事業 ～福島県郡山市・須賀川市～

2025年3月

「共感」・「協奏」・「変革」

ともにつくる東北。

はじめに

RESAS活用について

地域が抱える社会課題の解決を効果的・効率的に推進するためには、地域経済に関するデータを活用してエビデンスに基づいて政策を企画立案する取組（EBPM）が重要です。

データの活用促進に向けて、内閣府・経済産業省では、地域経済に関連する様々なビックデータを「見える化」する「地域経済分析システム（以下「RESAS」）」の運用を2015年4月から開始しております。

東北経済産業局では、東北地域の地方公共団体や商工団体・民間企業、金融機関、教育機関などにおけるデータ利活用を推進するため、RESAS普及活用支援調査員を配置して勉強会・研修会等に講師として派遣する出前講座等を実施しています。

当局の取り組みについて

RESASを活用したデータ分析による施策の立案や総合計画の策定等に向け、出前講座より一步踏み込んだ支援として、地方公共団体等の職員の皆様がデータによる地域の現状分析を行うための支援に取り組んでいます。

令和6年度は、統計データリテラシー向上およびEBPMの推進を目的とし、テーマごとに福島県郡山市と福島県須賀川市の職員による現状分析を実施しました。次頁以降で、その取組一例を紹介いたします。

【分析テーマ】※括弧書きは分析対象地域

人口（郡山市・須賀川市）

観光（郡山市）

産業（こおりやま広域圏）



【人口】 郡山市・須賀川市

人口分析まとめシート

項 目	内 容（データからわかること）
◆人口推移について	【郡山市・須賀川市(共通)】 ・人口は2005年以降減少傾向にある。（P.5） ・2020年から2050年にかけて高齢人口は増加するが、生産年齢人口は減少する。年少人口は半数弱まで減少する。（P.5） ・人口ピラミッドを見ると、2050年では男性は70～74歳、女性は75～79歳の割合が最も多い。
◆人口社会増減について	【郡山市・須賀川市(共通)】 ・10代後半からの進学や就職に伴う転出が続いている。（P.7） ・20代半ばの就職期に一定数の転入はあるものの市外に流出した数は戻っていない。（P.7） ・転入出数はともに県内中核市や隣接市町村が多い。 ・20代の転出超過を見ると、横浜市やさいたま市などの関東圏への転出が多い傾向にある。 ・30代の転出超過を見ると、近隣自治体への転出が多い傾向にある。 ・転出数を性別で比較すると、郡山市は男性の方が転出者数が多い傾向にある。須賀川市は2022年には女性の方が多い傾向にあったが、2023年には逆転し、男性の方が多い傾向となった。
◆自然増減に関して	【郡山市・須賀川市(共通)】 ・合計特殊出生率、出生数の低下が続いている。（P.8） ・死亡数の増加が続いている。（P.8） 以上のことから、人口減少が加速している。
◆社会的環境に関して	【郡山市】 ・夜間人口より昼間人口が多い。 ・近隣市町村からの通勤・通学の流入者数が多い。 以上のことから、企業・学校が多いことがわかる。 【須賀川市】 ・昼間人口より夜間人口が多い。（P.9） ・近隣市町村への流出者数が多い。（P.9） 以上のことから、近隣市町村のベッドタウンとしての一面がある。
◆進学者の推移について	・進学者は流出超過の状況が続いている。 ・流出超過の人数は、縮小傾向にある。 ・地元進学率はゆるやかに増加している。
◆就職者の推移について	・就職者数の純流入者数は、近年増加傾向にある。 ・地元就職率は80%前後の横ばいで推移している。

郡山市・須賀川市の人口推移

人口マップ→人口構成

人口推移を表示

← RESAS操作手順を書いております

【郡山市】

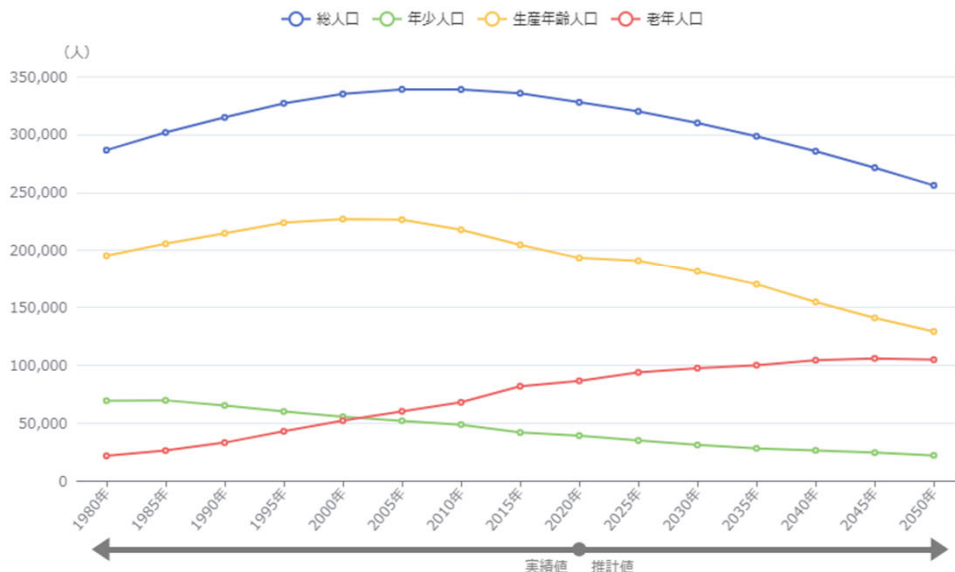
- ・総人口は2005年の約339千人まで増加したが、それ以降は減少傾向にあり、2050年には約256千人まで減少する。
- ・生産年齢人口は、ピークの2000年の約227千人から2050年には約6割（約129千人）まで減少する。
- ・年少人口は一貫して減少しており1980年の約69千人から2050年には約22千人まで減少する。
- 一方、老年人口は増加傾向にあり1980年の約22千人から2050年には約105千人に達する。

【須賀川市】

- ・総人口は2005年の約80千人まで増加したが、それ以降は減少傾向にあり、2050年には約54千人まで減少する。
- ・生産年齢人口はピークの2005年の約52千人から2050年には約半数（約26千人）まで減少する。
- ・年少人口は一貫して減少しており1980年の約16千人から2050年には約5千人まで減少する。
- 一方、老年人口は増加傾向にあり1980年の約7千人から2050年には約23千人に達する。

郡山市

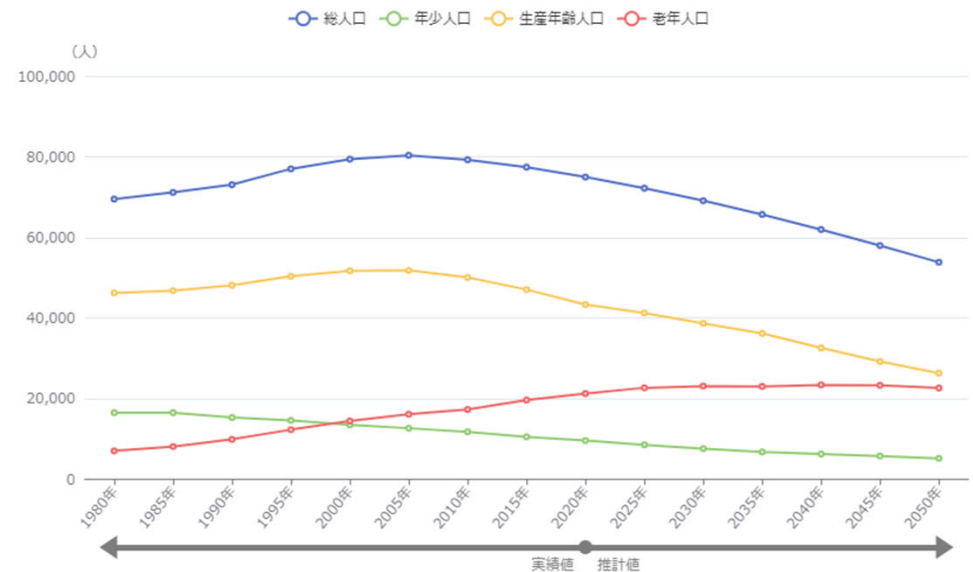
人口推移グラフ
福島県郡山市



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

須賀川市

人口推移グラフ
福島県須賀川市



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

郡山市・須賀川市の人口動態

人口マップ→人口の社会増減

From-to分析（定住人口）を表示

【郡山市】

- ・**転出超過**は仙台市が最も多く、次いで本宮市となっている。3位～10位は関東の都市が占めている。
- ・**転入超過**は会津若松市が最も多く、次いで福島市となっている。**転入超過**の上位は東京都葛飾区を除いて県内の自治体が占めている。

【須賀川市】

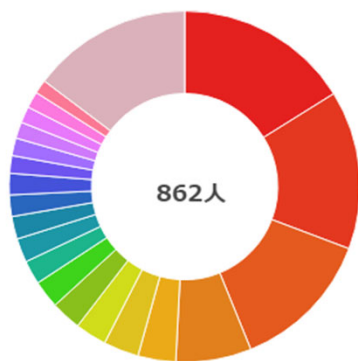
- ・**転出超過**は仙台市が最も多く、次いで鏡石町となっている。**転出超過**の上位は県内の自治体が多い。
- ・**転入超過**は白河市が最も多く、次いで会津若松市となっている。**転入超過**は栃木県宇都宮市を除いて県内自治体で占めている。

From-To分析（定住人口）

福島県 郡山市
2023年

転入超過数内訳

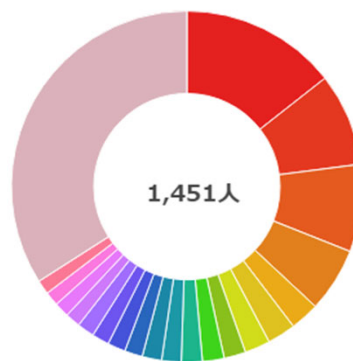
総数 総数



- 1位 福島県会津若松市 139人 (16.13%)
- 2位 福島県福島市 126人 (14.62%)
- 3位 福島県田村市 113人 (13.11%)
- 4位 福島県いわき市 60人 (6.96%)
- 5位 福島県白河市 30人 (3.48%)
- 6位 福島県二本松市 28人 (3.25%)
- 7位 福島県天栄村 25人 (2.90%)
- 8位 東京都葛飾区 24人 (2.78%)
- 9位 福島県猪苗代町 22人 (2.55%)
- 10位 福島県相馬市 19人 (2.20%)

転出超過数内訳

総数 総数



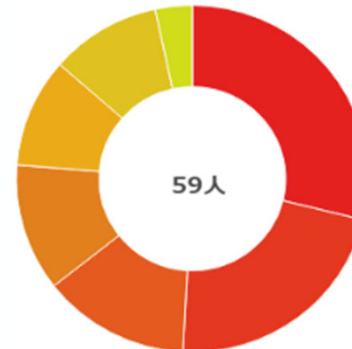
- 1位 宮城県仙台市 209人 (14.40%)
- 2位 福島県本宮市 124人 (8.55%)
- 3位 神奈川県横浜 117人 (8.06%)
- 4位 埼玉県さいたま市 86人 (5.93%)
- 5位 東京都世田谷区 39人 (2.69%)
- 6位 千葉県千葉市 38人 (2.62%)
- 7位 神奈川県川崎市 34人 (2.34%)
- 8位 東京都北区 29人 (2.00%)
- 9位 東京都大田区 29人 (2.00%)
- 10位 東京都足立区 28人 (1.93%)

From-To分析（定住人口）

福島県 須賀川市
2023年

転入超過数内訳

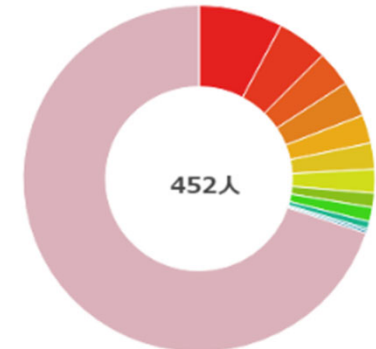
総数 総数



- 1位 福島県白河市 17人 (28.81%)
- 2位 福島県会津若松市 13人 (22.03%)
- 3位 福島県石川町 8人 (13.56%)
- 4位 福島県玉川町 7人 (11.86%)
- 5位 福島県二本松市 6人 (10.17%)
- 6位 栃木県宇都宮市 6人 (10.17%)
- 7位 福島県南相馬市 2人 (3.39%)

転出超過数内訳

総数 総数



- 1位 宮城県仙台市 35人 (7.74%)
- 2位 福島県鏡石町 21人 (4.65%)
- 3位 福島県福島市 15人 (3.32%)
- 4位 福島県いわき市 15人 (3.32%)
- 5位 福島県西郷村 12人 (2.65%)
- 6位 福島県矢吹町 11人 (2.43%)
- 7位 福島県天栄村 10人 (2.21%)
- 8位 福島県本宮市 6人 (1.33%)
- 9位 神奈川県横浜 6人 (1.33%)
- 10位 山形県山形市 3人 (0.66%)

郡山市・須賀川市の人口の転入・転出

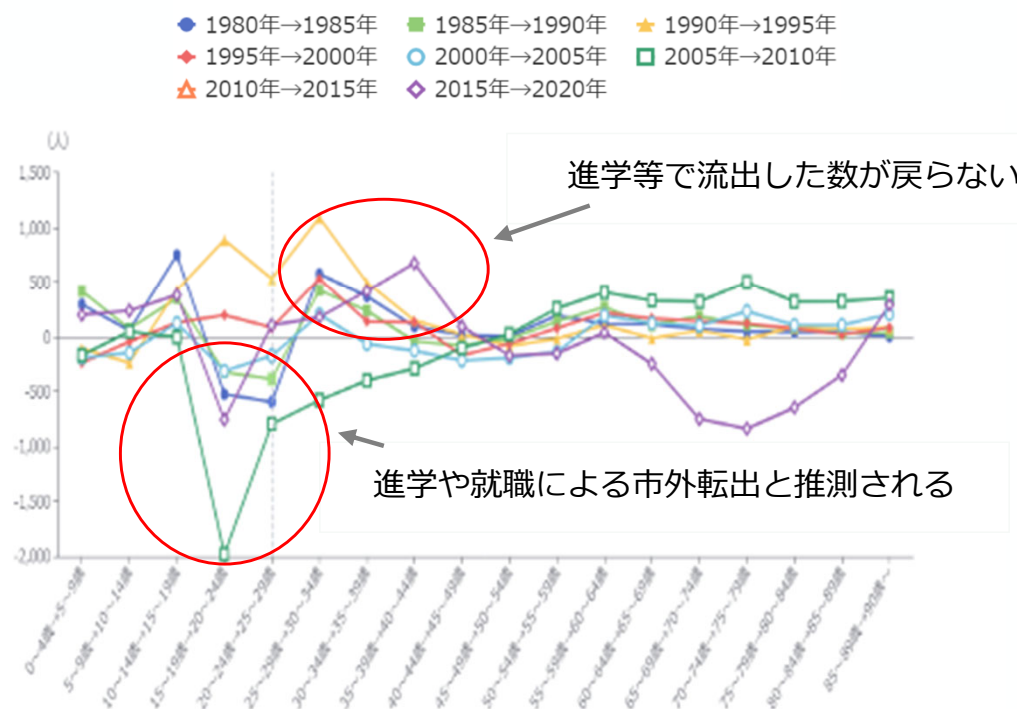
人口マップ→人口の社会増減

年齢階級別純移動数の時系列分析を表示

・10代後半からの転出は、進学や就職での市外への流出と推測され、20代半ばに一定の転入はあるものの流出した数が戻っていない。

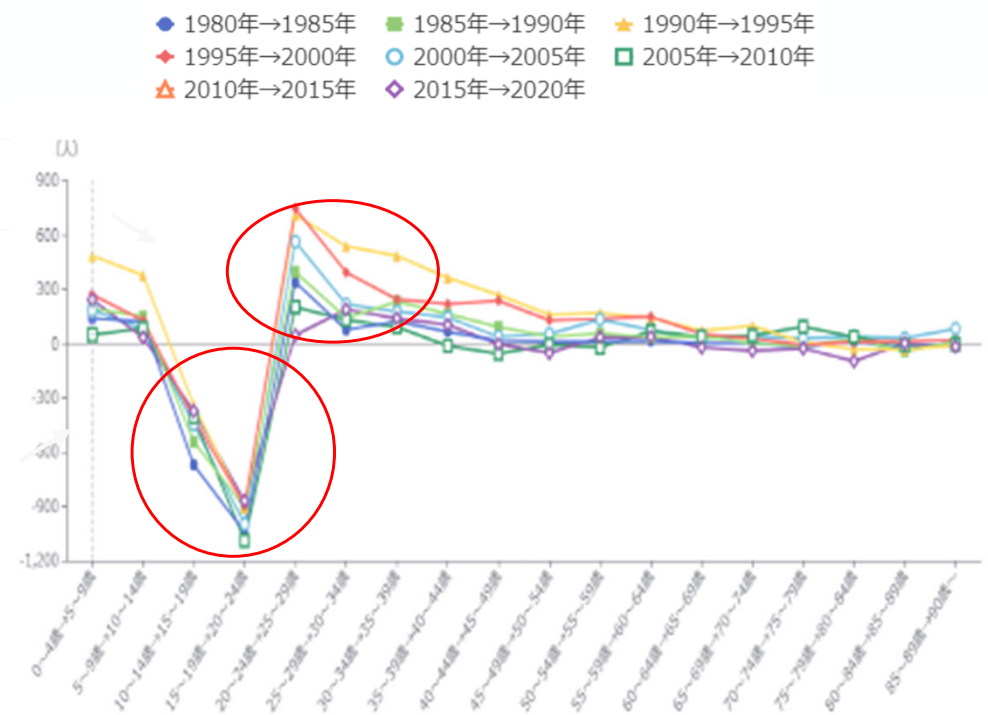
年齢階級別純移動数の時系列分析

福島県郡山市



年齢階級別純移動数の時系列分析

福島県須賀川市



【出典】RESAS_総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

郡山市の出生と人口推移

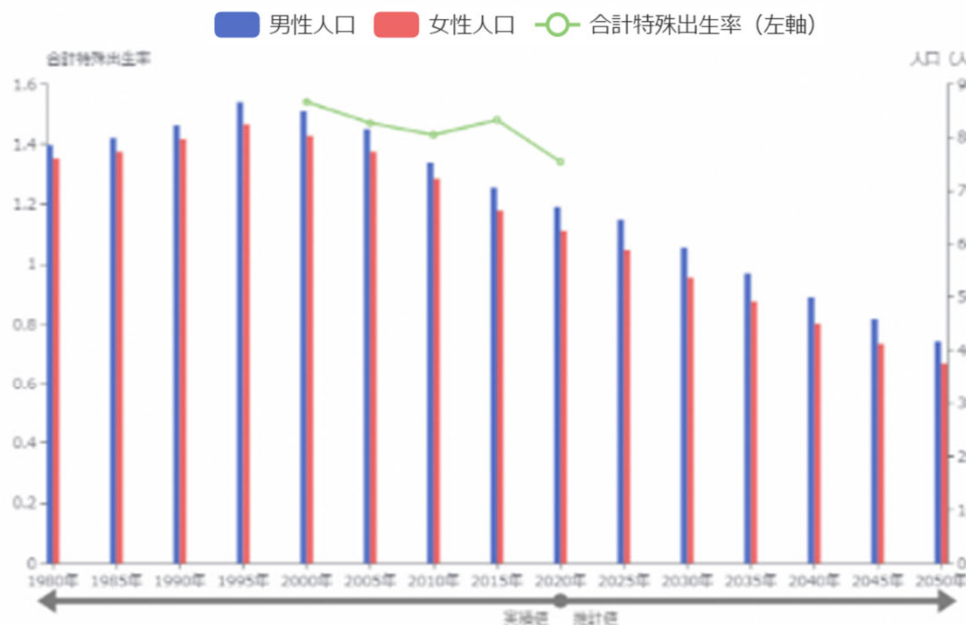
人口マップ→人口増減

合計特殊出生率と男女別の人口推移を表示

- ・15～49歳女性人口はピーク時は1995年の約82千人だったが、2020年には約62千人と約24%も減少した。
- ・転入数と転出数を比較すると、2011年に起きた東日本大震災の影響から大きく転出はあったものの、どちらの値もあまり差がなく推移している。しかし、出生数と死亡数を比較すると、出生数が年々減少しているに関わらず、死亡数は年々増加している。これらのことから、人口減少の要因は、社会的要因よりも自然的要因が起因していることが考えられる。

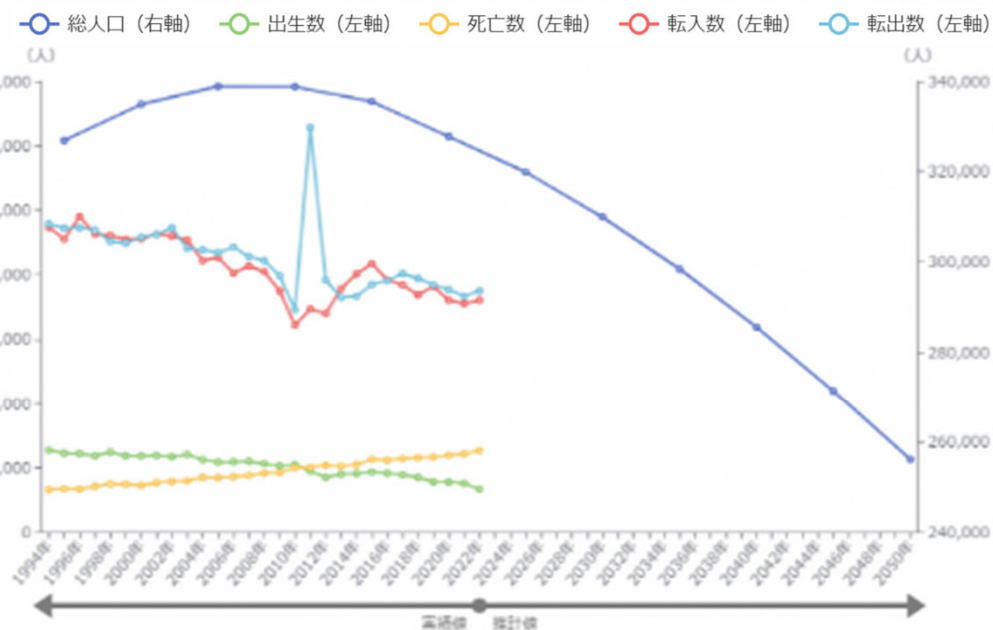
合計特殊出生率と人口推移

福島県郡山市
15歳～49歳



出生数・死亡数 / 転入数・転出数

福島県郡山市



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯調査数」

須賀川市の通勤・通学の状況

まちづくりマップ→通勤通学人口

流入者数・流出者数の地域別構成割合を表示

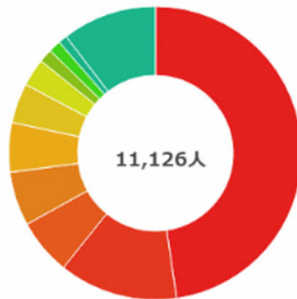
- ・通勤・通学者の流入者数・流出者数は、ともにに郡山市が最も多くなっている。
- ・流入者数・流出者数の上位3市町村が同じであるが、3市町村ともに流出者数が上回っている。また、全体としても大幅に流出超過になっている。
- ・昼間人口より夜間人口が多く、また近隣市町村への流出者数が多い。
- ・上記のことから、近隣市町村へ昼間に通勤・通学に出る人が多く、ベッドタウンの一面があることがわかる。

流入者数・流出者数の地域別構成割合

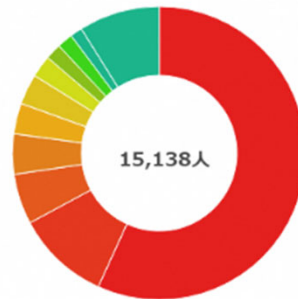
2020年 福島県 須賀川市
通勤者・通学者で見る

流入者数：11,126人
流出者数：15,138人
(流出超過数：4,012人)

域内への流入者数



域外への流出者数

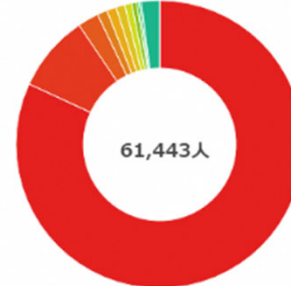


昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

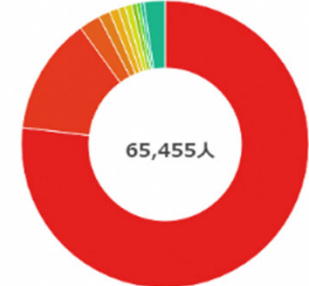
2020年 福島県 須賀川市

昼間人口：61,443人
夜間人口：65,455人
(昼夜間人口比率：93.87%)

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)





【観光】郡山市

観光分析まとめシート

項 目	内 容（データからわかること）
◆観光地について	・郡山市の観光施設はホテルが多くランクインしており、宿泊施設の需要が高い。（P.12） ・福島県内の観光地は、大内宿の人気の高さがわかる。 ・福島県の中央に位置しているため、県全域へのアクセスがよく、各地域への中継場所として訪れている人が多い。 ・福島県内からの訪れる宿泊者が多い。（P.15）
◆宿泊者の傾向	・郡山市の宿泊者の参加形態別では、「夫婦、カップル」や「男女グループ」及び「一人」が多い。（P.13） ・参加形態別で「一人」の宿泊者数は県内で最も多く、ビジネス目的での宿泊客が多いのではない。 ・福島県内市町村の宿泊日数は1泊が最も多く、次いで2・3泊であるが、郡山市については4泊以上の割合が周辺市町村と比較して多い。これは郡山市を拠点として県内の目的地に向かう傾向があるためと思われる。（P.14） ・福島県の客室の稼働率についてはコロナ前は8月の夏休み時期や10月、11月の紅葉の時期に上がっていたが、コロナ後は8月が減少している。これはコロナの影響で「体験型」が減少し、「観覧型」の観光へシフトした影響ではないか。 ・交通の利便性より、県内からの旅行者が多い。それ以外は、東京をはじめとする関東圏からの宿泊者が多い。20年21年はコロナ禍の影響により減少しているものの、宿泊割などにより徐々に持ち直しているものの、伸びが鈍化傾向にある。（P.15） ・郡山駅が各地域の交通ハブになっていて、観光客の宿泊地としての需要があるのではない。
◆外国人の滞在傾向と消費の構造について	・外国人においては「郡山（福島）」の検索回数が最も多くなっている。（P.17） ・福島県は台湾の滞在者が最も多く、次にタイ、ベトナムなどアジアが多い。（P.16） ・「郡山（福島）」の検索回数は、言語別ではベトナム語が最多であることから、ベトナムからの来訪者が多いことが推測される。（P.17） ・夜間は昼間と比較してどの国の滞在者も減少することから夜間は別の都道府県に宿泊していることがわかる。 ・外国人の消費では小売が約5割を占めている。 ・福島県は量販店での消費割合が最も高い。 ・外国人消費額はコロナ前と比較して多くなっており、福島県内での消費が活発になっていると考えられる。 ・台湾で見た場合の消費では小売が5割および観光・エンタメが約3割を占めている。 ・東北5県と比較すると福島県は観光・エンタメの消費割合が高い。

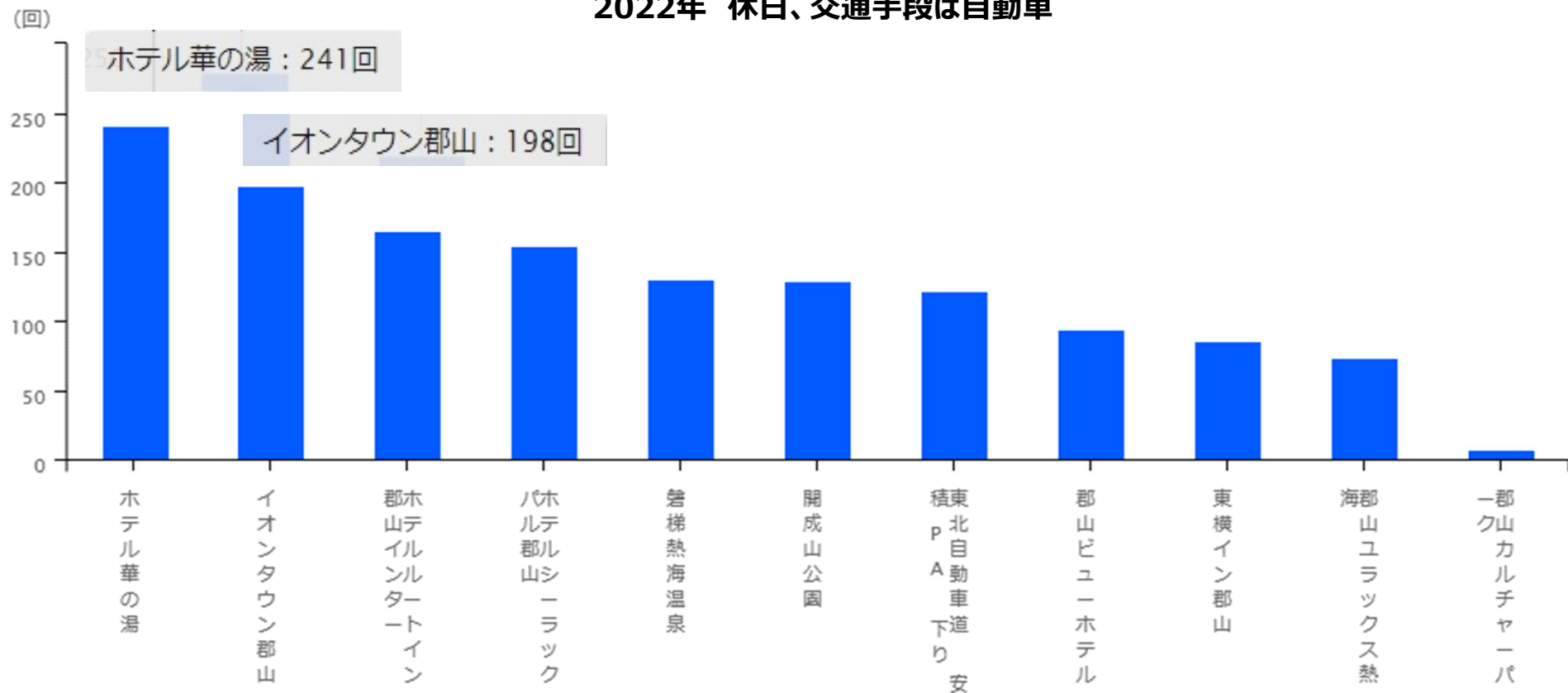
郡山市の観光地の注目度は？

観光マップ→目的地分析

ナビアプリの情報をもとに、観光施設などの検索回数を表示

- ・「ホテル華の湯」の検索回数が一番高く、次いで「イオンタウン郡山」となっている。
- ・ホテルが多くランクインしている。

郡山市 目的地検索ランキング
2022年 休日、交通手段は自動車



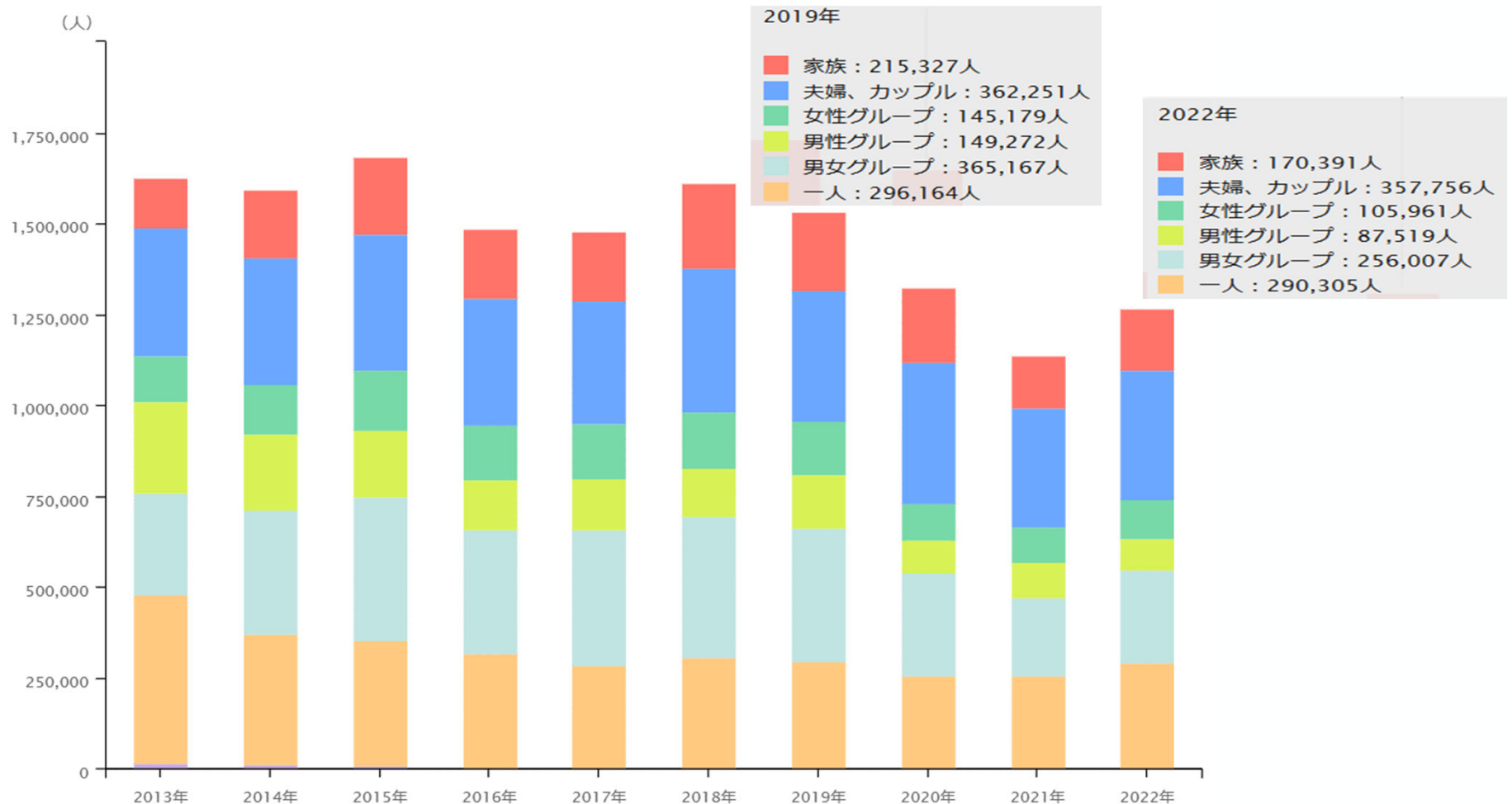
郡山市の宿泊者の傾向は？

観光マップ→From-to分析（宿泊者）

宿泊実績データを基に、居住地別、属性別の宿泊者数を表示

- ・宿泊者の参加形態別では、「**夫婦、カップル**」の割合が最も高く、次いで「男女グループ」、「一人」の割合が高い。
- ・コロナ禍を経て2022年以降は、**宿泊者数はやや回復傾向**にある。

郡山市 延べ宿泊者数（総数）の推移（参加形態別）



郡山市の宿泊者について（周辺市町村との比較）

観光マップ→From-to分析（宿泊者）

宿泊実績データを基に宿泊日数別の宿泊者数を表示

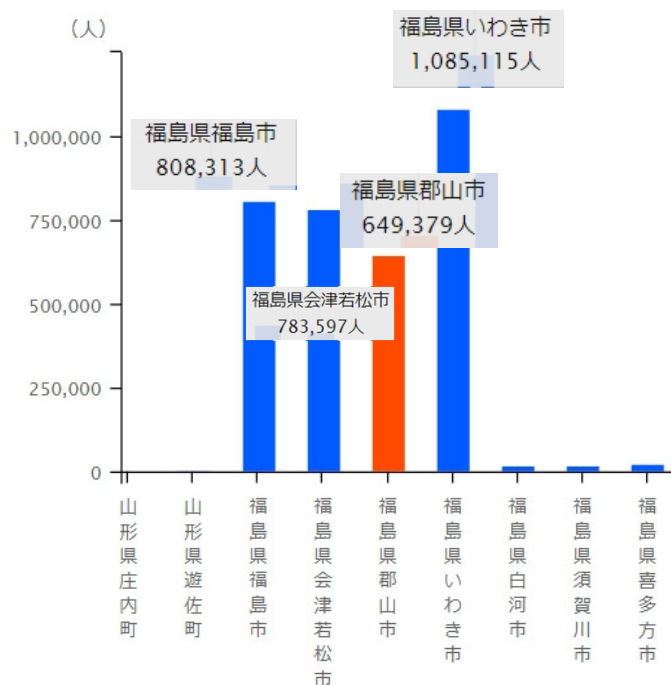
- ・全体的に宿泊日数が増えるごとに宿泊者数は**減少**している。
- ・**4泊以上の連泊**が**周辺市町村と比較して多い**。交通の要衝であることから、県内を周遊する際の拠点となっていると考えられる。

延べ宿泊者数

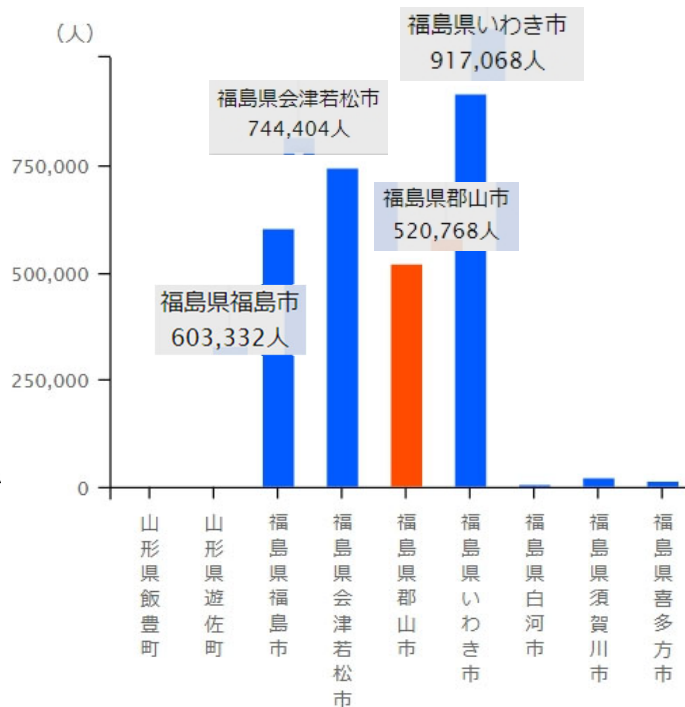
福島県郡山市

2022年

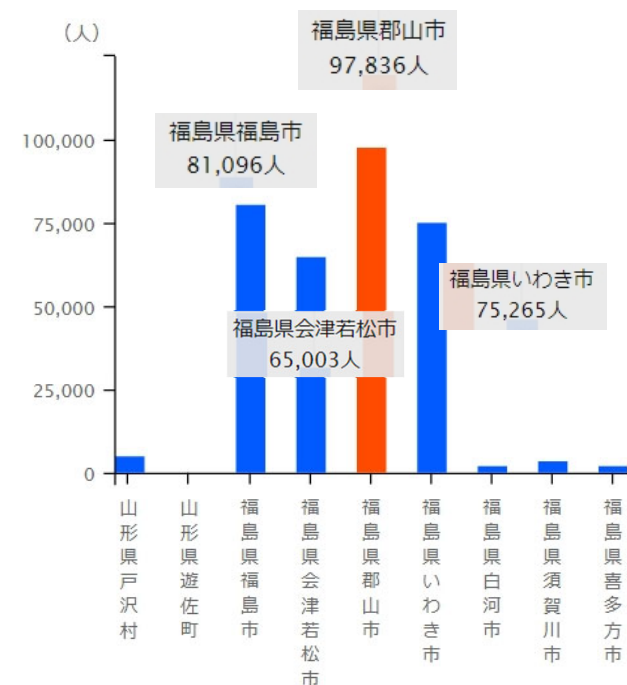
宿泊日数別 1泊



宿泊日数別 2・3泊



宿泊日数別 4泊以上



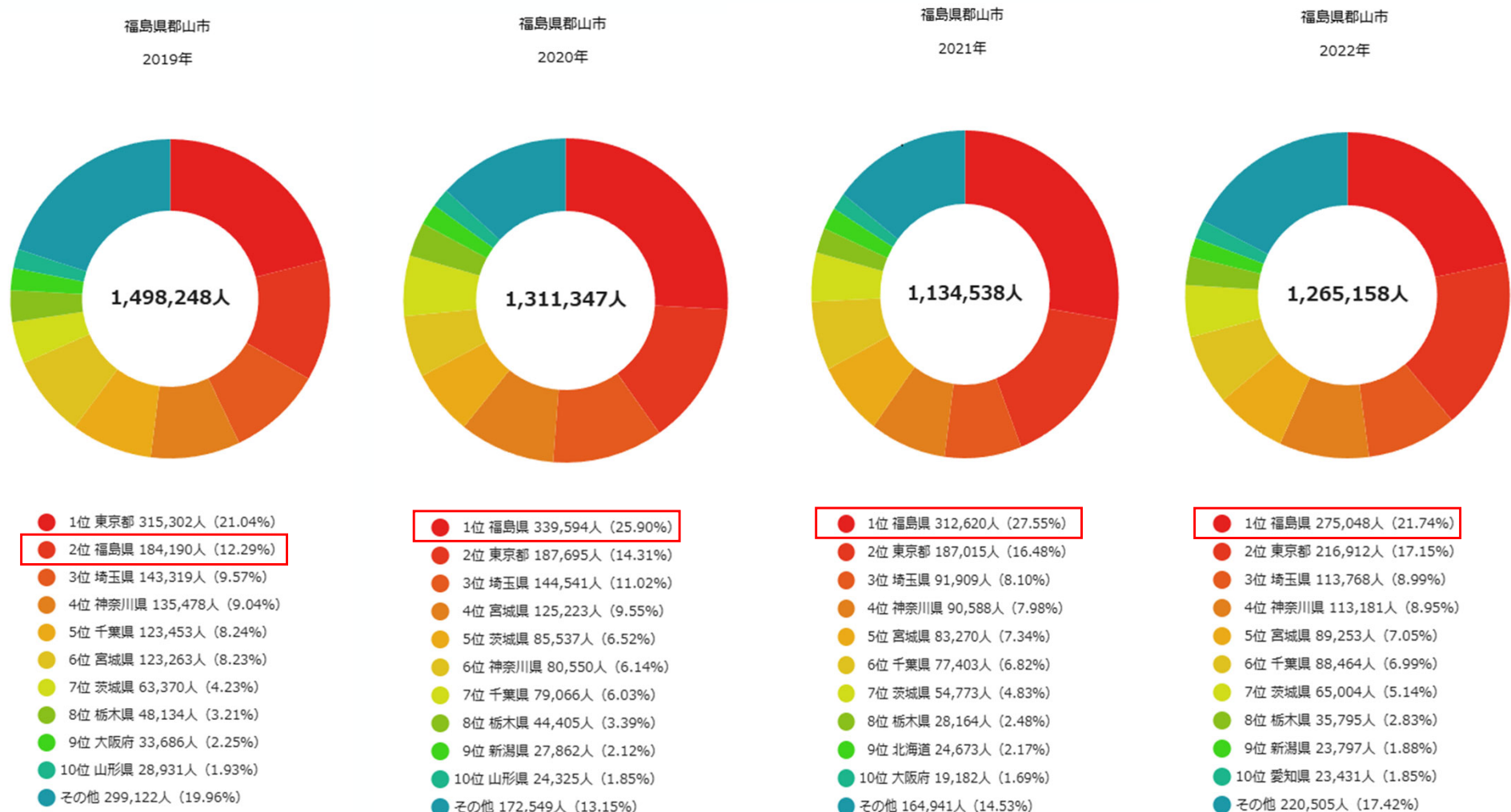
郡山市の宿泊者数の構成と推移

観光マップ→From-to分析（宿泊者）

宿泊実績データを基に、居住地別、属性別の宿泊者数を表示

・交通の利便性より、**県内からの旅行者が多い**。それ以外は、東京をはじめとする関東圏からの宿泊者が多い。20年21年はコロナ禍の影響により減少しており、県民割などにより徐々に持ち直しているものの、伸びが**鈍化傾向**にある。

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合



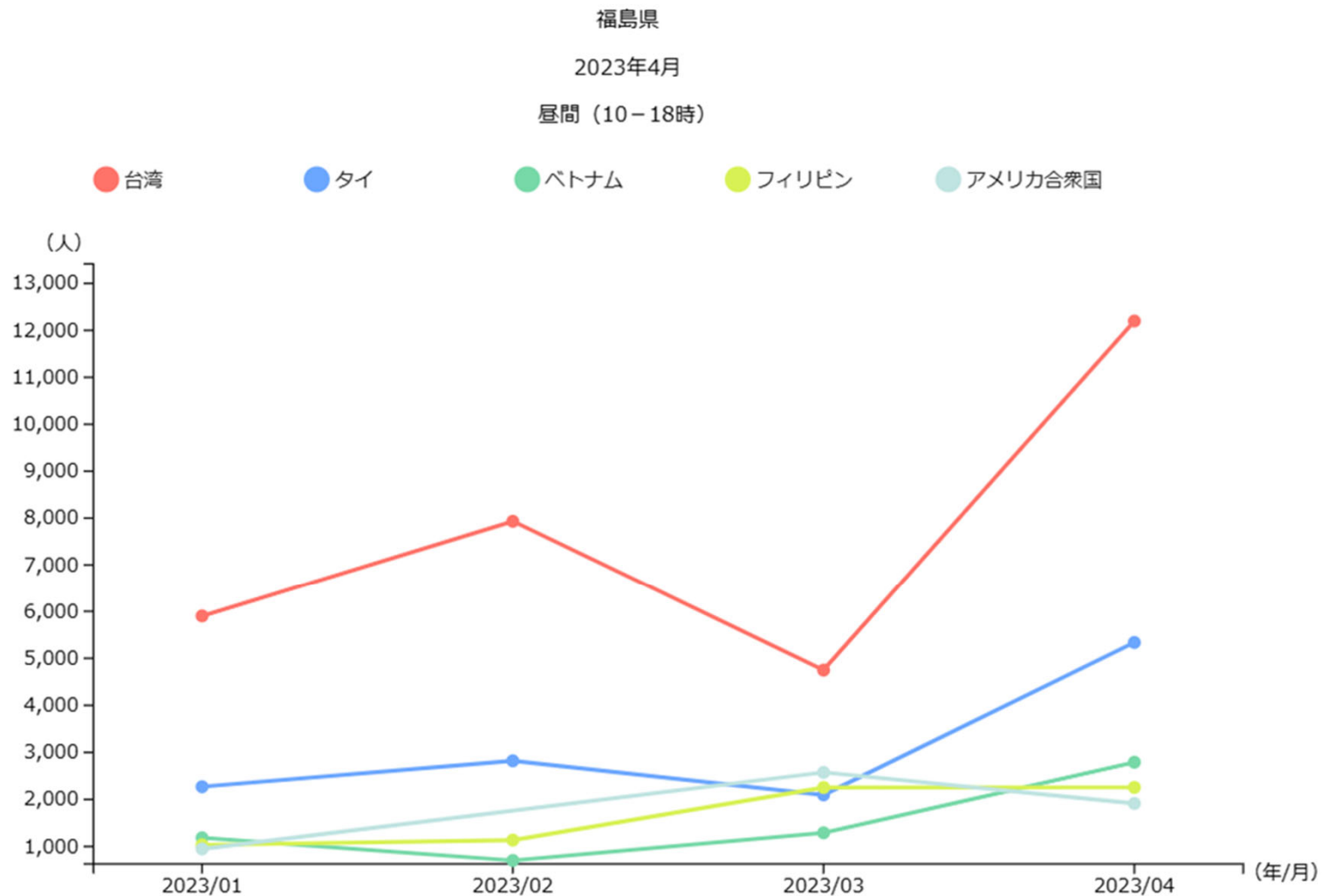
福島県の外国人滞在者数は？

観光マップ→外国人滞在分析

訪日外国人の滞在状況を昼・夜に分けて表示

・当該期間において、福島県は**台湾からの滞在者が一番多い**。これは台北-福島線の運航を1月に再開したためと考えられる。

国・地域別滞在者数の推移



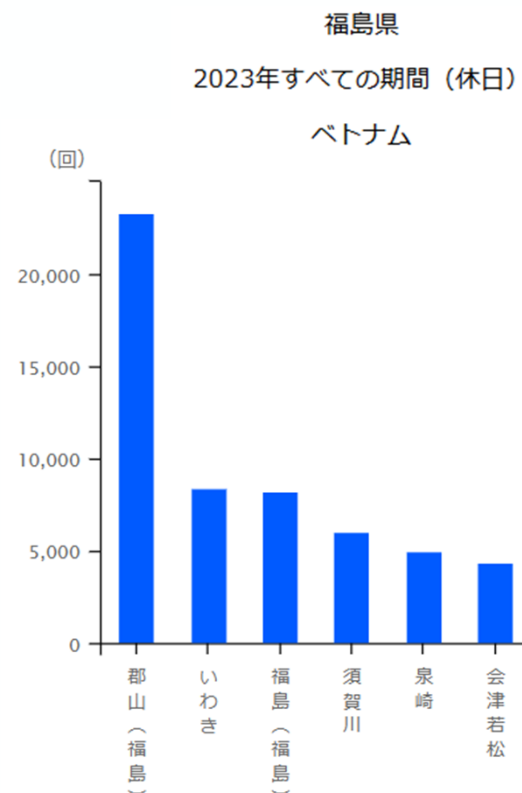
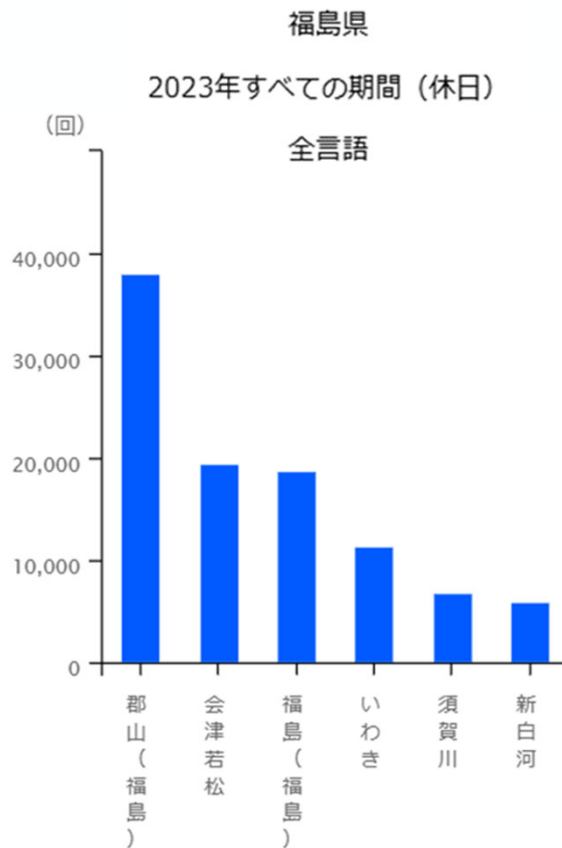
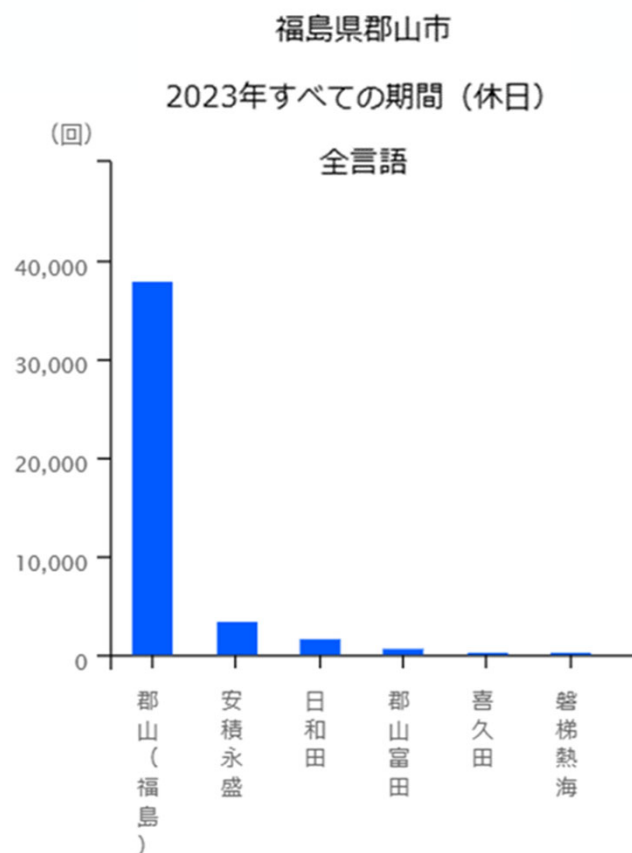
福島市及び福島県の外国人による目的地ランキングは？

観光マップ→外国人経路分析

外国人の言語別による地名の検索回数ランキングを表示

- ・地名では「郡山（福島）」が市内においても県内においても最も多く検索されていることから、県内における郡山に対する注目度が高いことが伺える。
- ・言語別では**ベトナム語**が**最多**であることから、**ベトナムからの来訪者が多いことが推測**される。

指定地域の目的地一覧





【産業】こおりやま広域圏

産業分析まとめシート

項 目	内 容（データからわかること）
◆こおりやま広域圏産業の特性	・売上高、付加価値額、企業数、従業者数において「卸売業、小売業」が最も高いが、労働生産性は低い。（P.20,21） ・製造業、商業の事業所数は年々減少しており、1990年代から比較して半分程度に減少している。一方、製造品出荷額は1割程度の減少であるため、1事業所ごとの出荷額は増加していることが見て取れる。 ・「飲料・たばこ・飼料製造業」の製造品出荷額等が2015年に大幅に減少しているのは、上場企業の工場閉鎖の影響が大きいと推察される。 ・こおりやま広域圏は他自治体と比較して、現金給与額が低い傾向にある。
◆税収アップの施策検討	・「製造業」と「医療、福祉」の従業者数はほぼ同数であるが、労働生産性では「医療、福祉」が「製造業」より約1.9倍高い。（P.21）「製造業」においては生産性を高める取組が必要であると推察される。行政ができる「製造業」の生産性を高める取組として、円滑な流通促進のための交通網整備や、材料や部品等の需要と供給のバランス調整やDXに寄与する広域圏内企業のマッチングなどが考えられる。 ・「製造業」の生産性向上を図ることで、事業所数や従業者数の回復につながるものと思われる。 ・事業所数が多いが付加価値額が少ない中分類の業種に対し、効果的な施策を打ち出すことで税収アップを期待することができる。 こおりやま広域圏で事業所数が多いのは1位「金属製品製造業」2位「食料品製造業」であるが、付加価値額では「金属製品製造業」は7位、「食料品製造業」は6位である。 「金属製品製造業」「食料品製造業」の分野における事業支援策を打ち出す等、検討の余地がある。
◆製造業の特徴	・製造品出荷額が大きい「化学工業」「電子部品・デバイス・電子回路製造業」等は事業所数はそこまで大きくなく、1事業所当たりの製造品出荷額が大きいことがわかる。（P.23） ・事業所数は全体的に減少傾向である。（P.22） ・出荷額では、上位を占める製造業は軒並み横ばいであるが、化学工業は増加傾向にある。 ・労働生産性については、「飲料・たばこ・飼料製造業」が最も高く、現在は増加傾向である。（P.24）
◆賃金水準（製造業）	・現金給与額（従業員一人当たり）については、電気機械器具製造業の523.08万円/人が最も高く、平均額が417.12万円/人となっている。（P.24） ・現金給与額（従業員一人当たり）について、全体的に増加傾向である。（P.24） ・県内の主要自治体と比較して、こおりやま広域圏の現金給与額（従業員一人当たり）は低くなっている。

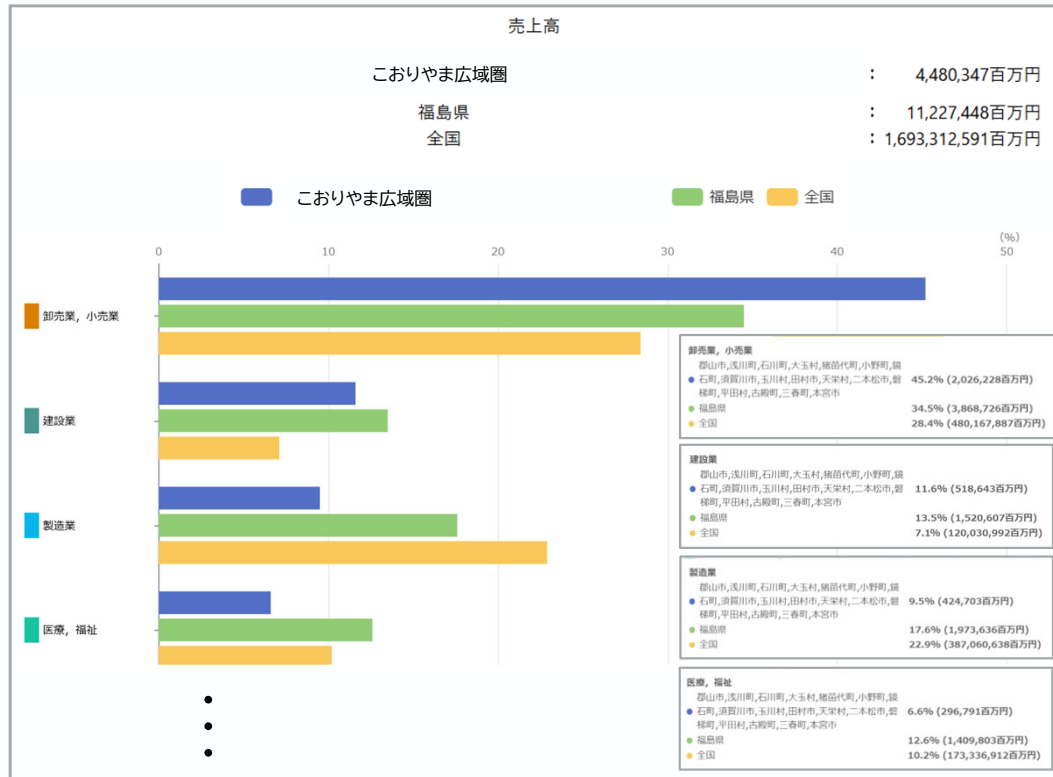
こおりやま広域圏の産業構造は？

産業構造マップ→全産業の構造

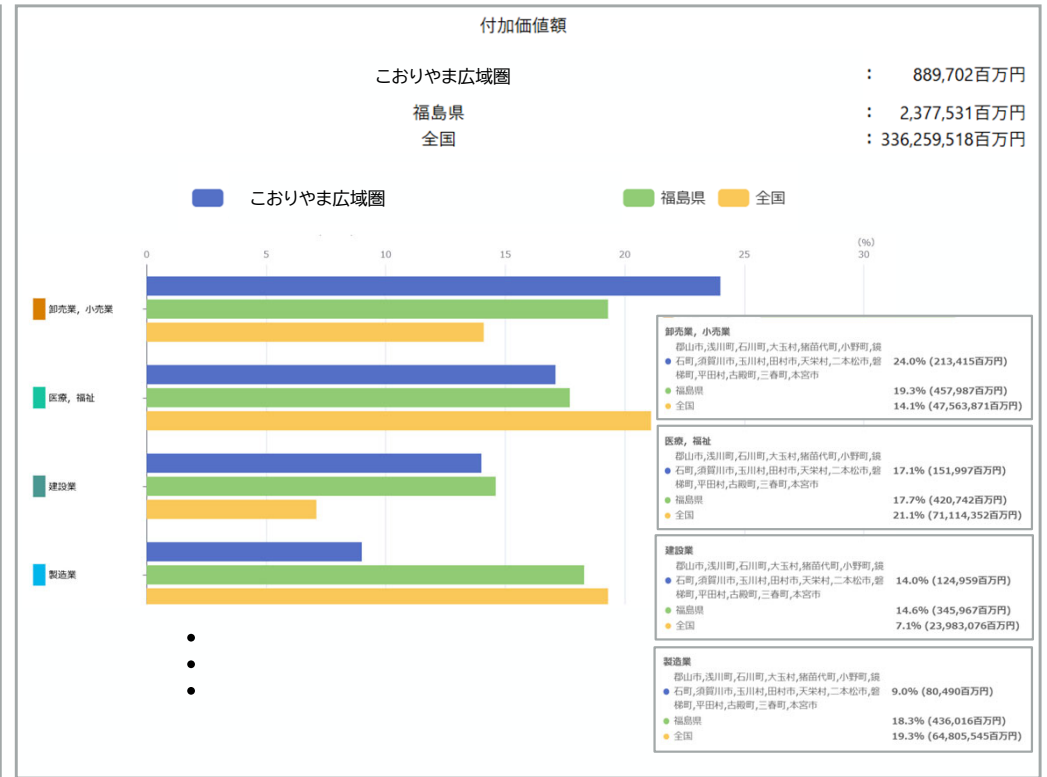
売上高（企業単位）、付加価値額（企業単位）の産業構成割合を表示

- ・売上高で見ると、「卸売業、小売業」が最も割合が高く、次に「建設業」、「製造業」が続く。
- ・付加価値額で見ると、「卸売業、小売業」が最も割合が高く、次に「医療、福祉」、「建設業」が続く。

2021年 産業構成割合 売上高（企業単位）
【大分類】



2021年 産業構成割合 付加価値額（企業単位）
【大分類】



【出典】RESAS_総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

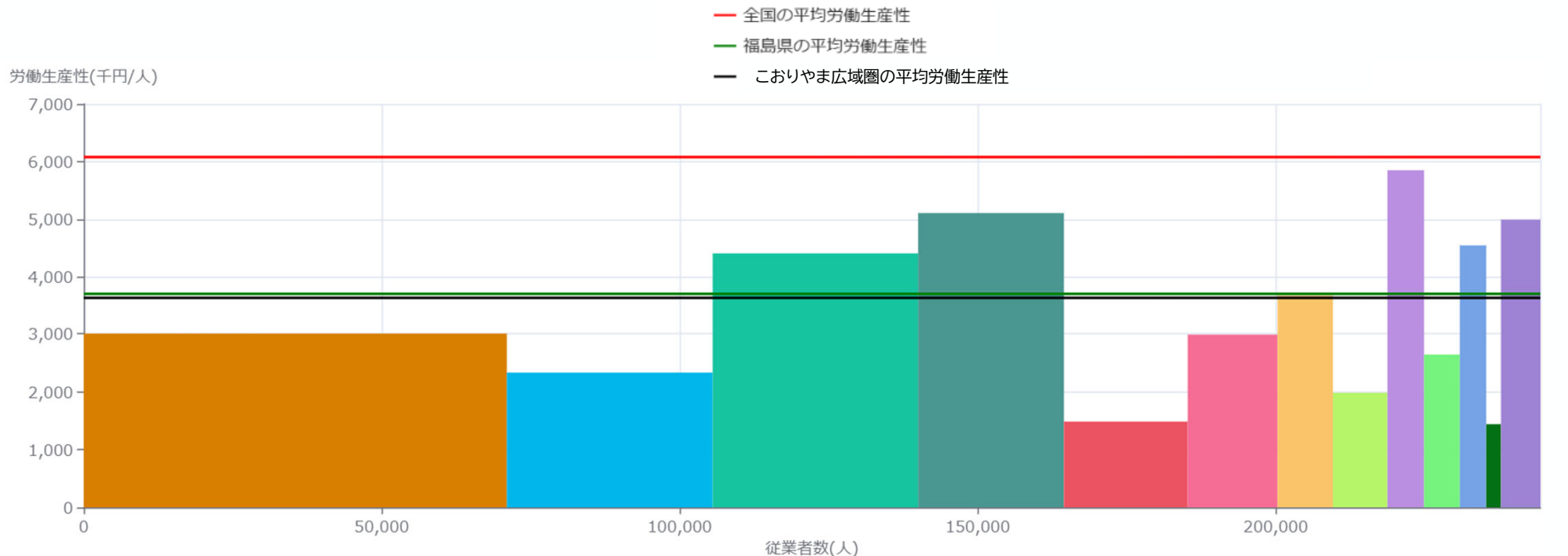
こおりやま広域圏の産業構造は？

産業構造マップ→全産業の構造（付加価値額の構造分析）

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額（面積）を表示

- ・付加価値額を見ると、「卸売業、小売業」が最も割合が高く、次に「医療、福祉」、「建設業」が続く。
- ・最も労働生産性が高いのは、「学術研究、専門・技術サービス業」である。
- ・最も従業者数が多いのは「卸売業、小売業」であり、次いで「製造業」、「医療、福祉」である。

2021年従業者と労働生産性から見る付加価値額



産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
● 卸売業、小売業	3,006	70,998	213,415
● 製造業	2,331	34,530	80,490
● 医療、福祉	4,409	34,474	151,997
● 建設業	5,108	24,465	124,959
● 宿泊業、飲食サービス業	1,484	20,769	30,818
● サービス業（他に分類されないもの）	2,988	15,069	45,019
● 運輸業、郵便業	3,677	9,297	34,188

産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
● 生活関連サービス業、娯楽業	1,982	9,142	18,124
● 学術研究、専門・技術サービス業	5,851	6,146	35,959
● 教育、学習支援業	2,644	5,996	15,854
● 不動産業、物品賃貸業	4,548	4,430	20,146
● 農林漁業	1,439	2,478	3,566
● その他	4,995	6,610	33,017

「その他」に含まれる産業、データを秘匿・欠測している産業

産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
金融業、保険業	5,285	2,244	11,860
複合サービス事業	3,114	2,226	6,931
情報通信業	5,925	2,002	11,861
鉱業、採石業、砂利採取業	2,157	83	179
電気・ガス・熱供給・水道業	39,745	55	2,186

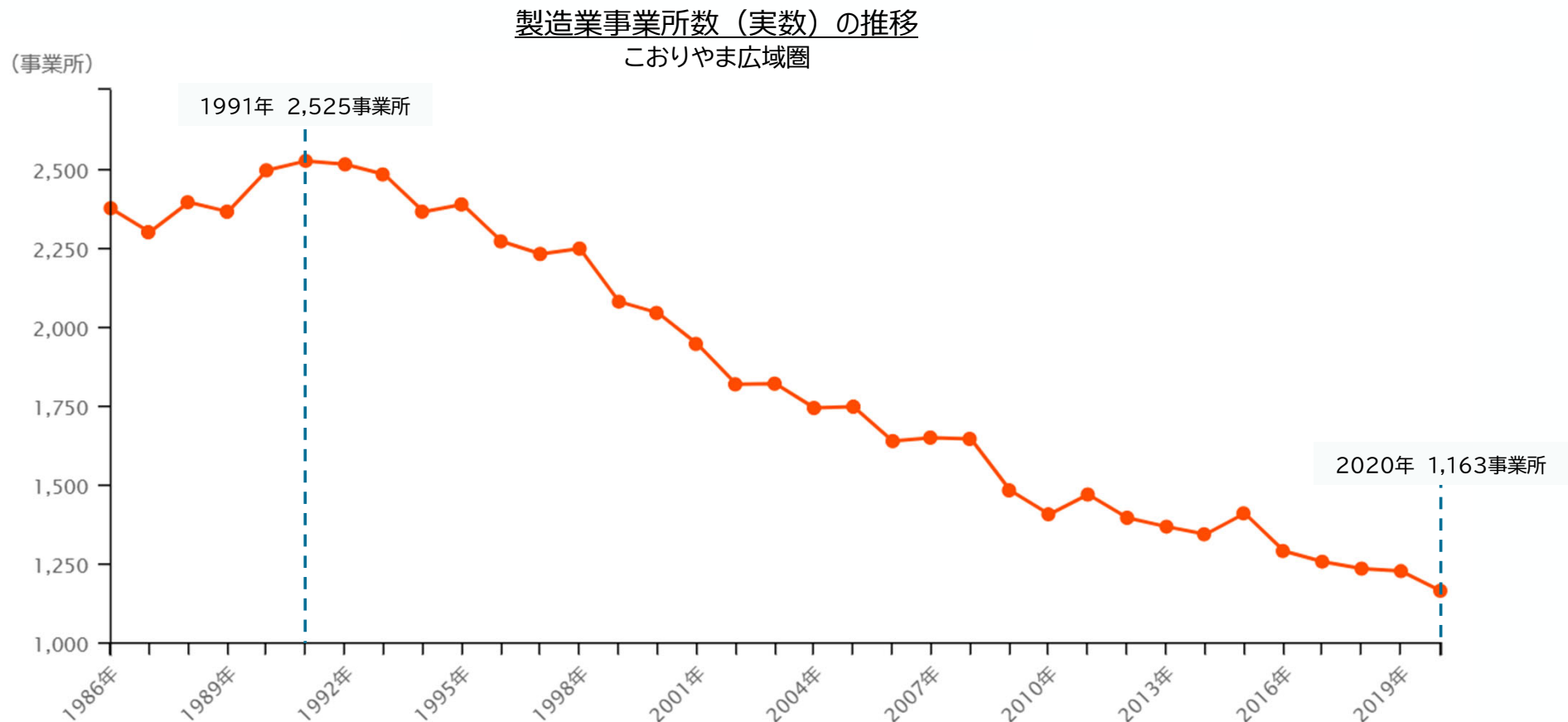
【出典】RESAS_総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

こおりやま広域圏の産業構造は？

産業構造マップ→製造業→製造業の比較（時系列グラフで表示）

製造業に係る事業所数（実数）の年次推移を表示

- ・1991年の2,525事業所をピークに、年々**減少**が進んでおり、直近の**2020年**には**1,163事業所（約46%）**まで**減少**している。
- ・**減少傾向**であるものの、**2011年、2015年は微増**している。



【出典】RESAS_経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

こおりやま広域圏の産業構造は？

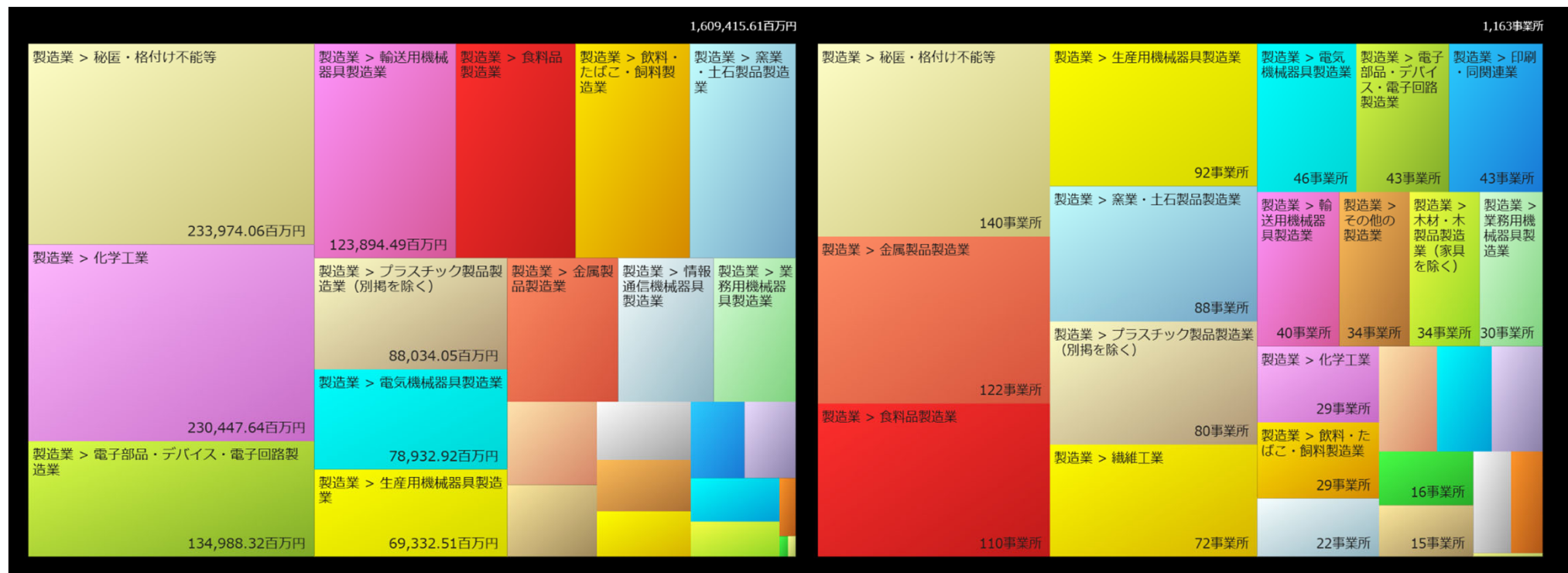
産業構造マップ→製造業→製造業の構造

製造業に係る製造品出荷額、事業所数の構造を表示

- ・**製造品出荷額**では「**化学工業**」が**全体の14.3%**、次に「**電子部品・デバイス・電子回路製造業**」、「**輸送用機械器具製造業**」「**食品製造業**」が大きい。
- ・**事業所数**では「**金属製品製造業**」が**122事業所と最多**で、次いで「**食品製造業**」「**生産用機械器具製造業**」、「**窯業・土石製品製造業**」となっている。

2020年 製造品出荷額等（実数）すべての中分類

2020年 事業所等（実数）すべての中分類



【出典】RESAS_経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

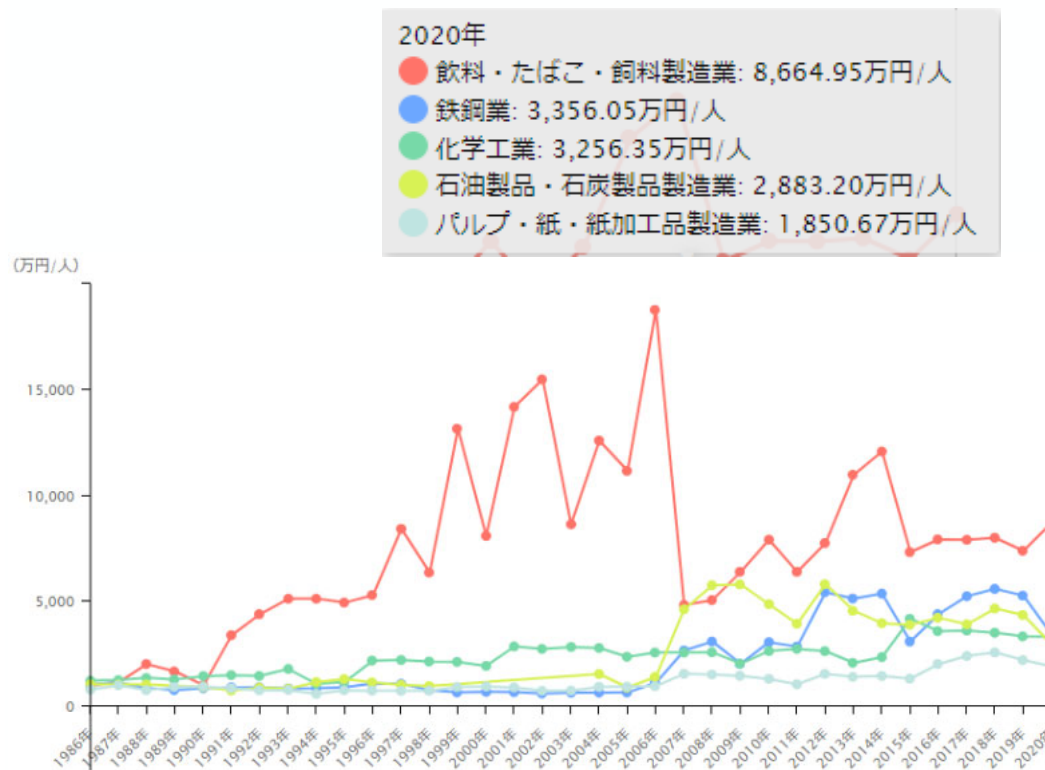
こおりやま広域圏の産業構造は？

産業構造マップ→製造業→製造業の構造

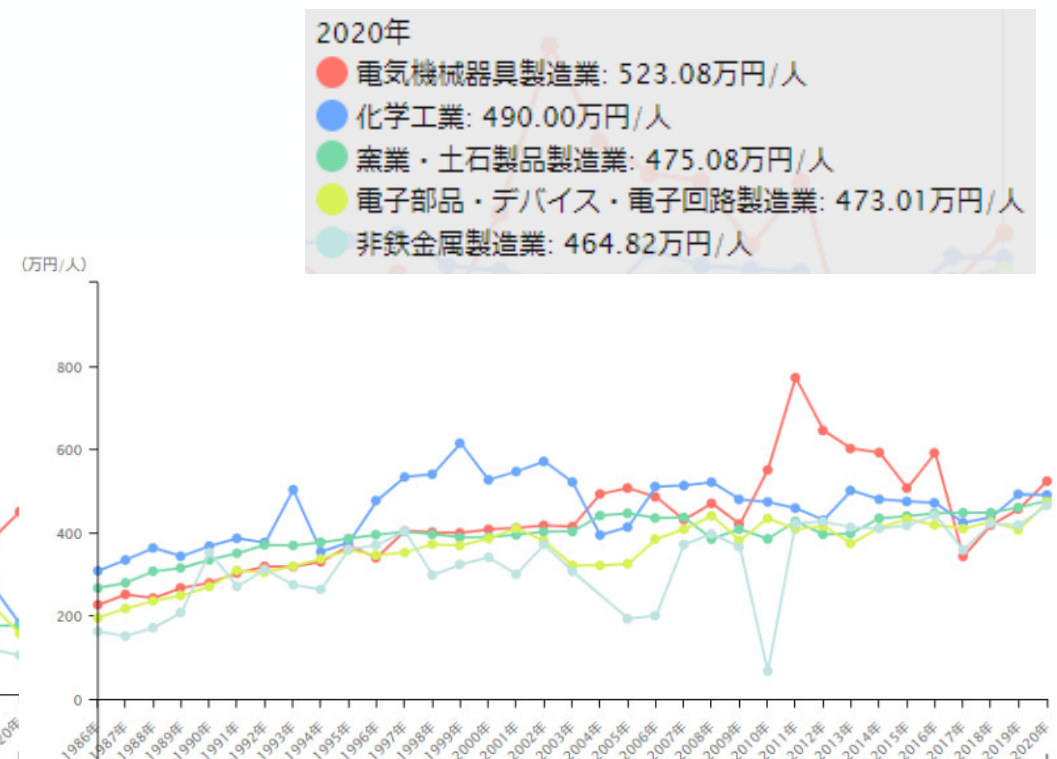
製造業に係る労働生産性、現金給与額の年次推移を表示

- ・**労働生産性**では「飲料・たばこ・飼料製造業」が2007年に大きく**減少**したが、その後は**増加傾向**である。
- ・**現金給与額を従業員一人あたり**でみるとどの業種も変動はあるものの全体としては**増加傾向**である。

2020年 労働生産性（実数）すべての中分類



2020年 現金給与額（従業員一人当たり）すべての中分類



【出典】RESAS_経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

郡山市の産業の現状は？

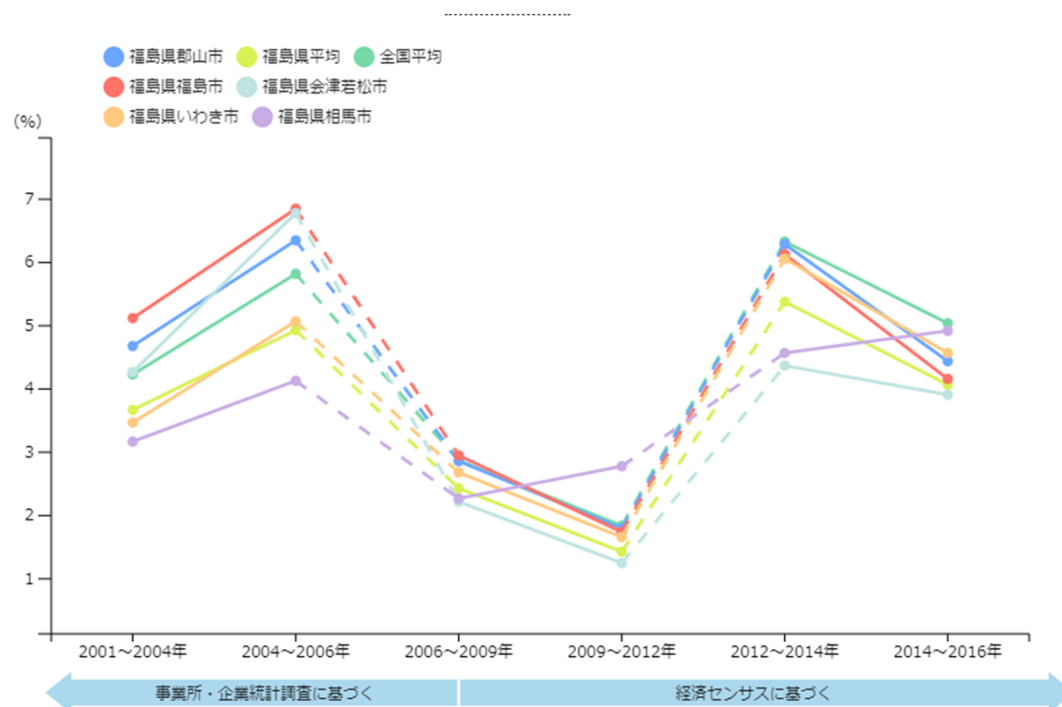
企業活動マップ→企業情報→創業比率（グラフで表示）

創業数の年次推移を表示

- ・2001年頃から2006年にかけての創業比率は、全国平均と比較して、当市（こおりやま広域圏中心）は**高い**。
- ・2006年以降からの創業比率は、全国平均と同様だったが、2014年頃から全国や他自治体を**下回っている**。

創業比率

※創業比率＝特定期間中の新設事業所（企業）の年平均 ÷ 期首において既に存在していた事業所（企業）で算出



2014～2016年

● 福島県郡山市:	4.44%
● 全国平均:	5.04%
● 福島県平均:	4.07%
● 福島県福島市:	4.16%
● 福島県会津若松市:	3.91%
● 福島県いわき市:	4.57%
● 福島県相馬市:	4.92%

創業比率順位	
福島県郡山市	
2016年	
都道府県内	全国
17 位	627 位

(1) 本事業の流れ（取組内容）

【令和6年】

- 8月23日（金）現状分析支援エントリー打合せ（リモート）
- 11月28日（木）RESAS講座（郡山市役所・周辺自治体）
- 11月28日（木）現状分析および資料作成に関する打合せ

【令和7年】

- 1月9日（金）現状分析支援事業参加者キックオフミーティング（リモート）
- 1月末 第1回現状分析資料の提出
- 2月末 第2回現状分析資料の提出
- 3月中 現状分析資料の確認・修正・仕上げ

(2) 職員の感想（郡山市職員・須賀川市職員の声）

- RESASは各種資料作成に使用できるデータが集積し、すぐにグラフにして活用できるため、事務の効率化になると感じた。
- 政策に生かすことができるデータがRESASにあるということが分かったと同時に、RESASの使い方及びEBPMの考え方、データの見方などについても、考えた方を知る機会になり、大変参考になった。
- 私自身が自治体感じていた印象と、数字から見る印象のギャップが新鮮で、EBPMの重要性を実感するとともに今後の業務に対しても、この事業で得た経験・スキルを活かしていきたい。
- 現状分析のために局から提供されたテンプレートをもとに分析することで、実務的な手順・操作方法をしっかりと学ぶことができ、大変勉強になった。また、テンプレートは全体の流れをつかむこともでき、スムーズに自身のデータ作成をすることができた。